

しぱれっと

Palette

10

2023 October

vol.278

特集 「営農振興計画」のあゆみ

農を担う
米麦農家 尾田 匠見 さん
上南地区…… 10ページ

今月の折り込み

令和6年産作付用水稲種子注文書
2023年10月号カタログショッピングチラシ ほか

西大寺宮農センター

基本
テーマ

地域と共に、儲かる農業をめざす

基本テーマについて

農業は一人だけではできません。地域の協力があつてこそです。農業を継続するうえで地域の担い手と協力し、儲かる農業を目指します。

小麦粗タンパク含量の向上と、パン用小麦の試験栽培について

生産者がRC（ライスセンター）やCE（カントリーエレベーター）に持ち込んだ小麦からサンプルを採取し、農事組合法人グリーンファーム岡山と共同で全サンプルの粗タンパク含量と、収量、品質を計測しました。

計測した数値を生産者にフィードバックし、次年度の栽培に活かしました。数値が低い生産者には、実肥施用の声掛けをするなどの活動を行いました。

パン用小麦の試験栽培については、生産者とJA職員、全農など関係機関と現地講習会を実施したり、実際に栽培した小麦（せときらら、ふくほのか）で作られたパンの試食会を開催し、国外産や他県産の小麦と比較したりしました。「せときらら」の作付面積は令和4年産に4^{ヘクタール}、令和5年産には12^{ヘクタール}と拡大しており、生産者は栽培基準を守り良質なパン用小麦を栽培しています。



園芸品目の生産振興

岡山県産ブランドイチゴやブドウの作付面積維持拡大の支援を行いました。（晴莓：9・4^{ルアー}、オーロラブラック：23・8^{ルアー}、シャインマスカット：194・6^{ルアー}、紫苑：9・2^{ルアー}）中でもイチゴは、新規栽培者や既生産者のハウスの新設、増設、高設栽培施設の導入を行っています。さらには、加温機やCO2発生装置などハウス内の設備導入にも取り組みました。

ブドウについては優良苗木のとりまとめを行い、535^{ルアー}相当を納品しました。（ピオーネ126本、シャインマスカット290本など）

契約野菜のキャベツ、白菜、夏秋ナスなどについても、ほ場の確認を行い面積維持拡大を進めました。



2年目につなぐセンター長の思い

パン用小麦「せときらら」の栽培試験では、生産者の方が栽培に関して協力いただいた結果が成果として現れ、次年度の試験栽培面積拡大につながりました。本所営農部とも密に情報交換や販路について相談を行い、農作物の栽培面積拡大に取り組むことができました。肥料農業に関しても担当部署と相談し、品目や土壌にあったものを選定し導入してきました。

一方で、コロナ禍の影響により農作物全般の販売価格の低迷と、地元開催のイベントが多数自粛にある中、厳しい状況にありました。しかし、今年度は開催されるイベントへの参加や、有利販売できるよう市場担当者との連絡を緊密に取り農作物の販売促進活動にも力を入れていきます。そのほか、営農振興計画の重点実施事項の取り組みを強化していきたいと思っています。

当センターでは、センター管内全体を指導するTACリーダーを中心に、各職員の営農指導レベルの向上を図っています。昨年度も内外問わず、多くの研修会に参加し、必要に応じて職員会議を随時開催し、センター内でも指導内容や支援事業について知識の共有や情報交換が行われています。

職員が一丸となり、「西大寺宮農センターがあつて良かった」と組合員の皆さまに

感じてもらえるよう日々努めていきます。



氏名：河原 英揮

趣味：スポーツ観戦 好物：メロン

座右の銘：好きこそ物の上手なれ

瀬戸内営農センター

基本
テーマ

持続可能な農業をめざして、
魅力ある瀬戸内ブランドを強化

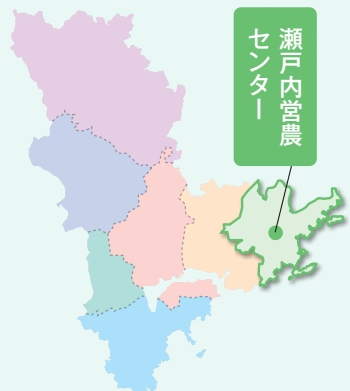
基本テーマについて

当センター管内は、米、大麦、果樹、野菜の盛んな地域として知られてきましたが、近年の高齢化による農業者の減少や耕作放棄地などによる栽培面積の減少の問題があります。このような現状を踏まえ持続可能な農業と、瀬戸内ブランドの強化を目指します。

行政機関と協力体制の強化と 産地の活性化のために

県や市など行政機関と協力体制を強化し、「就農促進トータルサポート事業」を活用し意欲ある新規就農者や定年帰農者へ栽培指導と相談対応を行いました。（令和4年度新規就農者…2名）

牛窓地域においては、平成25年5月31日に「冬黄白菜」として商標登録を行い、令和4年12月に更新しました。また、新たに同年10月「牛窓甘藍」の商標登録を行い、キャベツの生産振興と、実需者向けのPRを図りました。牛窓夏野菜部会では「そつめん南瓜」の知名度アップのため、令和4年7月に中国学園大学の協賛を受けアレンジレシピお披露目会を開催しました。



瀬戸内営農
センター

販売戦略の強化と販売体制について

当センター管内は20の生産者組織があり、各組織で安全・安心な農産物を消費者にお届けできるよう栽培講習会をはじめ、目揃え会、査定会、検査などを実施しました。

市場担当者や部会役員と面前で販売対策会議を開催し、情報共有を図りました。また、JA職員が部会役員に同行し、市場へ出向き卸業者と商談や意見を交わしました。

TAC指導員と営農センター 職員の指導力の底上げ

令和4年度より、TAC指導員を1名増員し、5名の職員が中心となり指導活動を行っています。それぞれの地域で栽培品目が異なるため、センター内で定期的な会議を開き、知識と情報の共有と指導力の向上に努めています。その他の職員についても栽培講習会や現地講習会をするなど基礎知識を習得しました。センター職員全員の営農知識の幅を広げるよう実践しています。



2年目につなぐセンター長の思い

当センター管内は、瀬戸内市および岡山市の一部を範囲とし、地域別に、米麦・野菜・果樹・花卉の産地があり、多種多様の農業が展開されています。しかしながら、産地全体では生産者の高齢化や就業人口の減少にともない、栽培面積の減少などの問題もあります。JAだけでは解決が難しいこともありますので、生産者組織や関係行政機関と協力し、一歩ずつ解決に向かうよう努力いたします。

また当センター管内は牡蠣の産地でもあり、牡蠣殻の資材にはなじみ深く、近年では野菜や果樹など園芸作物に多く使用されており、水田においても土壌改良資材として施用しています。循環型農業への関心と理解を高め栽培面積を増やしていきたいと思っています。

その他にも、牛窓地域においてGIS地図システムを活用し、耕作放棄地や不耕作地の分布を把握し、作付調査の結果をもとに作付分布図の作成にチャレンジしています。将来的に規模拡大を望む生産者や、新規就農者への情報提供に役立てたいと考えています。

当センターは指導力の底上げを目指していますが、生産者へ出向いての指導が十分に出来ていないと感じています。

TAC指導員

に限らず、地区担当者の指導力を含めたレベルアップを図り、生産者・地域の皆さまと協力しながら、顔の見える業務を行っていきます。



氏名:石黒 健

趣味:農機具鑑賞 好物:漬物
座右の銘:継続は力なり



パソコンで作業の効率化を図る

8月3日、上南地区の尾田匠見さんにお話を伺いました。

祖父の思いを引き継いで
—就農したきっかけは

祖父の代から地域の農地を借り受けて米麦農業を経営しており、母も一緒に農業に従事していたので、私も小学生の頃から手伝っていました。

その後、会社に勤めていました

が、祖父から何度も「農業をやってみないか」と誘われたこともあり、就農を決意しました。

—農業を始めてからは

今年で就農して16年になります。就農当初は40畝ほどの経営面積でした。それから徐々に借受農地を増やしながら7年前に法人化し、今年の4月に社名を現在の「サニーファームまさだ株式会社」に変更しました。現在では稲5品種を78畝、麦3品種を28畝作付けし、品種ごとに生育状況が違うので、作業が重ならないように注意しています。

以前より経営面積が増えたので、地図情報システムを活用したほ場管理をしています。肥料農薬の散布情報や収量・品質といった収穫データを蓄積して、来年の作付けの参考に使っています。

また、今まで労力がかかっていた営農計画書も地図システムを基に作成して省力化することによって、効率的に作業を行うことができます。

—苦労することは

会社は私と妻、母とアルバイトで経営していますが、農繁期の人員の確保が大変です。

それからこの辺りは用水路で水を管理していますが、水路の老朽化の影響もあって、水の管理に苦労しています。水の管理は稲の生育に大きな影響があるので、ほ場の整備が必要になります。

米・麦の栽培割合を調整して、収量増
—今後の抱負は

今後も経営面積は増えていくと思うので、地図システムを参考にしながら米と麦の作付けの割合を考えて収量の増量に向けて効率よく栽培していきたいです。それに伴って乾燥施設も増設し、施設の環境整備も計画しています。

また社名も今年から変更したので、地域の方に会社を知ってもらえるように引き続き地域に根差し、農業を頑張っていきたいです。

聞き手…J A岡山広報担当



農業への思いを話す尾田さん



大型農機を使いこなす尾田さん

祖父の思いを引き継ぎ、
この地で農業を続ける。

尾田 匠見さん

上南地区：米麦農家

「おだ たくみ」

昭和58年生まれ。サニーファームまさだ（株）代表取締役。上南米麦クラブ副会長。趣味は、釣りとバイク。座右の銘は「探求心」。



野菜

そら豆は
デリケートな
野菜です



営農部指導課
祇園 将人

●そら豆について

原産地は地中海沿岸で、生育適温は16℃～20℃で、冷涼な気候を好みます。暑さ、寒さにあまり強くないデリケートな野菜です。年末・年始等の厳寒期に小さな幼苗（本葉5枚程度）だと耐寒性が強く、少々の寒波には耐えますが、苗が大きくなると0℃以下で寒さの害を受けるので早播きは厳禁です（資料1）。

所説ありますがそら豆は、さやの先が空に向かって付くことが名前の由来だと言われています。収穫時期にはさやが水平～下向きになるので収穫の目安になります。

●畑の選定

そら豆は水はけのよい肥沃な土地を好みます。特に播種直後に大雨などでほ場に水が停滞すると種子が腐敗してしまい発芽しません。水はけが心配なほ場では高畝にするように心掛けましょう。酸性土壌は嫌うので播種の前

には必ず石灰を施用しましょう。また、豆類は連作を嫌います。一度豆類を作付けした所は3年程度豆類を栽培しないようにしましょう。

●ほ場の準備

播種の2週間前に10平方メートルあたり堆肥約20㎏、石灰約1㎏施用し、耕しておきます。1週間前にJA岡山専用有機肥料等を約800g/㎡施用し、約1・2㎝程度の幅の畝を作りましょう。

●播種

そら豆の種子は播種前に水につけたりすると腐敗の原因になるので水につけるのは厳禁です。播種は畝の中央に株間約40㎝で1条播きをし、1力所1粒播きます。種子はオハグロ部分を斜め下にし、種子が見えなくなる程度に厚さ1㎝程度土で覆います（資料2）。種子が見えてしまうと、発芽までに鳥害にあうことがあるので注意が必要です。

また、1粒播きのため、欠株となることがあるので予備の苗を用意しておき、本葉2枚のころに、あまり根を切らないように注意して補植しましょう。

●茎の管理

春になって茎が50～60㎝になると不要な茎を整理します。茎が込み合つて株の中の方まで光線が入らない場合は、遅れて出た細い茎を切除し、1株7～8本にします。

●追肥・土寄せ

茎の整理が終わると追肥のタイミングになります。10平方メートルあたりJA岡山専用有機肥料等を約300g/㎡施用

花き

春が楽しみ
おなじみの
チューリップ



営農部指導課
中川 雄一

豊富な花姿・チューリップ

桜とともに開花する秋植え球根の定番です。栽培のポイントとミニ知識のご紹介です！

花言葉は「思いやり」、とても親しまれている花なので、色や本数でさまざまなものがあるようです。

●歴史と特性

チューリップの原種は地中海沿岸のスペイン、アフリカから中央アジア、中国西部、西シベリアまで広く分布していて、そのもとはカザフスタンの天山山脈と砂漠地帯から始まったとか、トルコのアナトリア地方からなどといわれています。

気象的には、比較的冷涼で、冬が湿潤で、夏は乾燥した地帯が中心です。この環境が現在の品種の好む基本的な条件と思われる。

とても美しい植物のため、12世紀にはトルコで品種改良されていたことが記録でわかるそうです。

その後オランダで改良が進み、珍しい球根が驚くほどの高価で取引され、「チューリップバブル」の時代を経て、チューリップオランダのイメージにつながっています。

日本には江戸時代に入りましたが、

まだ一部での栽培に限られ、一般化したのは大正時代、富山県、新潟県での商業生産からです。

●秋・花はもうできている！

球根を掘り上げるときには来年の葉の元ができており、夏の球根貯蔵中に花芽ができて始め、秋には球根内に来春の花ができています。

もったいないですが、植え付け前の球根をむいてみると小さな蕾があります（資料5）。

つまり、この時点で来春開花する球根が咲かない球根かは決まっていますから、植え付けには充実した球根を選びましょう。

●植え付けの適期は紅葉のころ

球根は秋早くから販売されますが、根の伸長適温は10～15℃とされ、早植えすると生育がよくありません。逆に低温には比較的耐えるので、適期は地域の紅葉の見ごろの頃からです。

●植え付けについての注意

・花芽分化後に極度の高温に遭うと花芽が枯れることがあるので、植え付けまでの間、入手した球根は直射光の当たらない涼しいところに保管します。

・定植適期には、球根の下が発根部が膨らんでいます。植え付け時にここを傷めないように注意しましょう（資料6）。

・植え付け後はタップリ水やりし、その後も乾燥しないように気をつけましょう。出蕾までの間に乾燥しすぎると、これも花芽が枯れる

し、同時に株が倒れないように土寄せを行います。そら豆はさやが大きくなり始めから収穫期にかけて株が倒れる場合があるので、ある程度の草丈になると周囲に杭を立て紐を張り、倒れないようにしましょう。

●病害虫・灌水

暖かくなるとそら豆はアブラムシの発生に注意が必要です。生育・収量に大きな支障をきたすウイルス病もアブラムシで媒介されるので発生初期に防除しましょう（資料3）。

そら豆は乾燥に弱いので乾燥が続くようなら灌水を行います。特に開花期以降の極端な乾燥は落花やさやの大きさが変わる原因となるので水切れにならないように灌水しましょう。

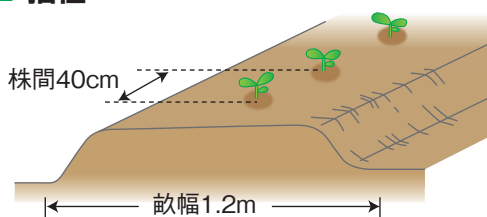
資料1 そら豆の作型表

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				■						●	

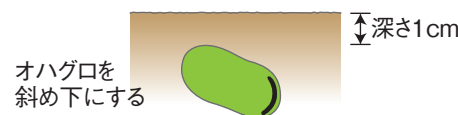
● 播種 ■ 収穫

資料2 播種

直まき



まき方



資料3 そら豆に登録のある殺虫剤

薬剤名	適用害虫	希釈倍数	使用時期	使用回数
アディオソ乳剤	アブラムシ類・ハモグリバエ類	3,000倍	収穫7日前	3回
スタークル顆粒水溶剤	アブラムシ類	2,000倍	収穫7日前	2回
スミチオン乳剤	アブラムシ類	1,000倍	収穫3日前	3回

資料4 収穫

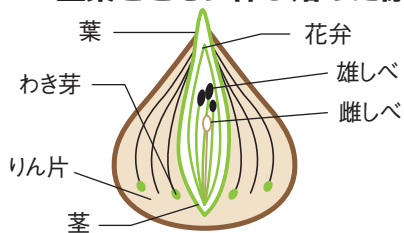


さやが斜め上に
むいているのは
未熟。下向きになり、
光沢が出てきたら収穫適期

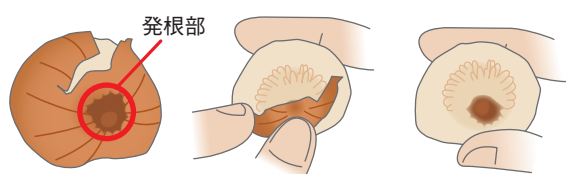
●収穫

さやが肥大し、上にむいていたりさが水平～下向きになり、背筋部が黒くなると収穫期です（資料4）。収穫始めには必ずさやをむき、粒のオハグロ部分が黒くなっているか確認しましょう。そら豆は収穫期間の短い作物です。取り遅れないように注意しましょう。

資料5 秋、球根内にできていた花芽が茎葉とともに伸び始めた様子



資料6 動き出した発根部



左のように発根部が外皮に覆われている場合、発根部を傷めないようにむくと発根しやすい

資料7 ウイルス感染して発色不良になった花（モザイク病）と複色花品種



ウイルス感染株は、よく見ると葉も部分的な変色やヨレがあります

●春から気をつけること
・花がら摘みは早めにしましょう。花が色あせてきたら花弁が散る前に、雄しべなどと一緒に花首から折り取りましょう。結実させないことで球根肥大を促進します。また、花弁や葯などが葉に落ちると褐色斑点病が

・花色がまだらになるウイルス病は媒介するアブラムシをジェイエース粒剤などで防除するとともに、伝染源になる発症した株は早く抜き取り処分しましょう（資料7）。

☆ビオラなどの混植
春までは寂しいチューリップ花壇を華やかにするためビオラなどと混植することはすでに一般化しています。これがチューリップの冬の水管理にも好都合なのです。

・発生しやすくなります。はさみを使うとウイルス病を感染させる恐れがあるので手で取ります。花が終わってから球根養成期間になるので、水やりを続けてできるだけ葉を維持します。肥料はやりません。

・5月後半以降、葉が半分くらい黄色くなってきたら水を控えて掘り上げに備えます。

原因になります。

果樹

来年の初期
生育の準備を
しましょう



営農部指導課
武田 祐一

今年の果樹は、長梅雨の連続降雨や梅雨明け後、連日の猛暑による高温乾燥等の影響で、樹体はかなりのダメージを受けていると思われます。この秋に施肥や灌水など土づくりを徹底して、葉のある年内に貯蔵養分の蓄積を促し、来年の初期生育につなげていきましょう。

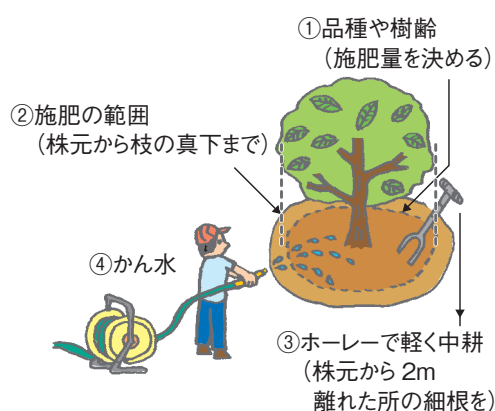
●果樹の基肥について

基肥には窒素、リン酸、カリの3要素が入った肥料を施用し、必要に応じて石灰やマグネシウム、その他微量要素（マンガン、鉄など）を施用しましょう。施肥後は軽く土と混和して肥料成分と土をよく馴染ませてから灌水することで肥料の吸収を促します（資料8）。果樹品目別の基肥施肥量の目安を参考に土づくりにご活用ください（資料9）。樹勢（葉色や徒長枝の発生数など）を考慮する。や今年の収量、土質などを考慮して弱っているような樹は施肥量を1〜2割程度加減しましょう。

●土づくりの方法

土づくりにおいては株元の太い根を断根するとさらに衰弱するので、株元から2倍離れた細根が多いところを土壌改良します。部分深耕や中耕を行うと根を切断することになります。根を切るにより、新しい根が発生し樹勢回復を図ることができます。

資料8 施肥の範囲と手順



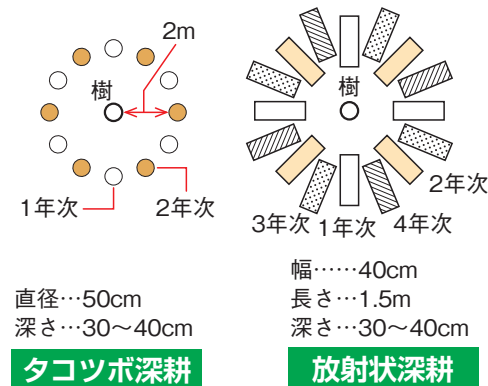
た、固まった土壌を堆肥と一緒に耕すことで通気性、排水性、保水性の改善につながります。部分深耕を極端に行うと根量が一時的に減少し、樹勢が弱まる原因となる場合があります。樹冠面積の1〜2割程度に留めて行い、数年かけて実施しましょう。タコツボ深耕と放射状深耕の事例を（資料10）に示しておきますので、参考にしてください。注意してもらいたいことは、深耕した時に土壌改良資材・堆肥と掘土を混和し、乾燥しないうちに埋め戻して、灌水することです。そして、県南では土壌改良の適期は10月中であり、遅くとも11月上旬ごろまでには行いましょう（地温が下がり過ぎると断根した傷口が癒えないため）。土づくりが遅くなり過ぎると新根が発達せず初期生育の低下や、枯れ込みにつながるために注意が必要です（資料11）。堆肥の施用が大変な場合は、こうぼ堆肥（濃縮堆肥）を代用することで重労働の作業が省力化できます。ただし、1〜3年生の育成中の樹では、通常の堆肥を施用する方が、根づくりや細根を増やすという観点で堆肥

資料9 果樹品目別基肥一覧表

果樹の種類	基 肥		追 肥		窒素成分量 (g)		
	時 期 (月)	施用割合 (%)	時 期 (月)	施用割合 (%)	1樹当たり		成 木 (10m ² 当たり)
					1年生	3年生	
モモ	10~11	80	8~9中	20	100	200	100~120
ブドウ	10~11	80	収穫後(9)	20	100	300	80~140
ナシ	11~12	70~80	6、7、9	20~30	100	200	180
カキ	12	70~80	6下~7上	20~30	150	200	120~170
ウメ	11~12	80	7	20	100	150	150
スモモ	10~11	80	9	20	100	200	100~120
イチジク	11~12	60	6上、8上	40	50	80	150
キウイ	10~11	70	3、6、9	30	100	350	180
クリ	11~12	60	7上、9下	40	50	75	200
リンゴ	11~12	80	収穫後(10)	20	100	200	180
ビワ	9上	60	2中、6上	40	50	100	250
ミカン類	3~4上	60	6上、11上	40	50	100	200

を利用した方がよいと思います。4年生以降の幼木からは、こうぼ堆肥をまいて省力化するのが一番いい方法だと思われま。また、堆肥といってもいろいろありますから、特に注意するべきは安価な堆肥だと思えます。なぜかというところ、安価な堆肥は完熟していないことが多いからです。安価な堆肥は、放置できる場所があれば、1年〜半年放置して、余分な肥料成分を雨ざらしにして抜いてから使用する癖をつけましょう。そうすることで、根が肥あたりしなくなるうえ、完熟堆肥に近づいていくからです。完熟した堆肥は、有機物の分解が進み、くさい臭いがなくなり、色が

資料10 タコツボ深耕・放射状深耕



資料11 土づくり時期

断根時期	秋根の発根状況	発根後の秋根の状態 (冬)	評価
10月上旬まで	・太い直根が伸長 ・翌春までに枯死 ・遅伸びを誘発		△
10月上旬中～11月中旬 (地温 13℃以上)	・細い秋根の伸長 ・休眠まで働く ・翌春早く発根		◎
12月上旬中	・カルス化のみ ・翌春は新根が出る		○
12月中旬以降	・枯れ込み ・初期生育低下		×

黒褐色ないし黒色に変化し、水分が蒸発して、手で触るとフカフカした感触の状態になったものをいいます。



彩り野菜のクリーム親子丼

【材料 (2人分)】

ご飯	1合
鳥肉	120g
タマネギ	60g
トマト	60g
アスパラガス	10g
赤パプリカ	10g
卵	2個

<調味料A>

水	240cc
コンソメ(顆粒)	小さじ2
醤油(濃口)	大さじ1弱
めんつゆ(3倍希釈のもの)	大さじ1弱

<ホワイトソースB>

バター	大さじ1と1/2
小麦粉	大さじ1と1/2
牛乳	220cc~230cc(お好みの固さに調整)
コンソメ(顆粒)	小さじ1/2程度(お好みで)
塩コショウ	少々
ブラックペッパー	少々

- 鳥肉はひと口サイズに小さめにカット、タマネギはくし形の薄切り、トマトはさいの目切りにして、<調味料A>を合わせたフライパンでしっかり煮込む。
- アスパラガス、赤パプリカは食べやすい大きさに切り、塩ゆでにする。その後、ざるにあげて水気をきっておく。
- ホワイトソースを作るため、小麦粉とバターを600wのレンジで30秒加熱し、泡だて器でむらなく混ぜる。
- ③に牛乳(60cc程度)を少しずつ加えて混ぜ、600wのレンジで3分加熱する。
- ④を取り出してよく混ぜた後、残りの牛乳(50cc程度)を少しずつ混ぜ、600wのレンジで更に1分加熱する。
その後コンソメ、塩こしょうとブラックペッパーで味付けする。
- ホワイトソースが完成したら、①に溶き卵を加えて半熟になるまで加熱する。
- ご飯の上に⑥をのせて、周りにホワイトソース、アスパラガス、赤パプリカをトッピングして完成。

Point!

ご飯に⑥をのせる時は、汁をやや多め(つゆだく状態)にするとホワイトソースとの絡みが良くなります。



岩倉公園

今回のあぐろグラムでは、加賀郡吉備中央町上田西にある岩倉公園について紹介いたします。

岡山県の中心点を検出した結果、岩倉山(標高394.2m)をシンボル公園として整備しました。写真は、中心点を表現したモニュメントです。

中心のステンレス球はHeart・Of・Okayamaを表し、他はそれぞれ 県内の旧行政区分(岡山・倉敷・高梁・井笠・東備・勝英・津山・真庭・阿新)を代表しています。

ここからは360度のパノラマが見渡せ、気軽に利用できる自然レクリエーションの森として親しまれています。

編集担当 弘末 彩香

